

「こんごうかいまんだら金剛界曼荼羅、だいひたいぞうしょうまんだら大悲胎藏生曼荼羅」の製作について

この度、三ヶ年の製作期間をかけて両界曼荼羅を製作することとなりました。

曼荼羅とはサンスクリット語mandalaを音写したもので本質を得るという意味、即ち仏の最高真理を表し、輪円具足、完全、円満等と訳されます。真言密教の根本経典である「金剛頂経」「大日経」に基づき根本本尊である大日如来を中心に多くの尊像を一定秩序のもとに配置した密教の世界観を象徴的に表わしたものであります。

弘法大師は密教の教えは経典だけで理解することは難しいことであり図絵や仏具等、色々なものによって解釈されるべきであると考え、特に両界曼荼羅を大日如来の世界観の表徴として重要視されたのです。

この真言宗にとって極めて大事な意味を持つ両界曼荼羅を今回、東日本大震災を始めとする多くの災害物故者の鎮魂と被災地の復興、更には日本国の安寧と発展を祈ることを目的に一大発願し、下記の通り製作することと致しました。

つきましては、本尊大日如来との血縁を結んで頂きたいと志納金を受付けております。お志のある方は当山までご連絡下さい。

平成 28年 5 月

合 掌

記

- 1、製作者 日本美術院院友 愛知県立芸術大学模写班
藤田 哲也 先生
- 2、製作期間 平成28年9月～平成31年12月
- 3、製作費(諸費用含む) 1,500 万円
- 4、志納金 1口1万円(何口でも可)

※お問い合わせは泉蔵院まで
電話 048(927)5327